

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400626		
法人名	有限会社 ハートウォーミング		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	札幌市西区発寒14条3丁目6-16		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町村受理日	平成28年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0170400626-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの最低人員配置よりゆとりを持った配置にしており、入居者1人1人にしっかりとケアができるよう配慮している。入居者様には、生き生きとした生活をして頂くため、穏やかな日常生活だけではなく、月に1回の外出・外食行事を企画し、非日常を楽しむ機会を設けている。施設内では、可能な限り自立した生活を送って頂くため、家具配置を考え、掴まり歩行の方が安心して暮らせるよう配慮している。また、雇用管理責任者を配置し、職員の労働環境を適切にし、残業もなく、しっかりと休憩ができる業務内容にすることで、職員の精神衛生も良好となり、結果、より良いケアを提供することにつながっている。外部研修(初任者・実務者研修、認知症介護実践者研修等)への参加支援と、さらに、施設内研修を定期的実施することで、介護士としてのスキルアップを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅街にある1ユニットのグループホームである。近隣には小学校や大型店があり、利便性に恵まれている。同法人経営のデイサービスあさひⅡは同地域にある。建物は木造2階建て内部は手入れが行き届き、清潔で温かく家庭的な雰囲気である。看護師、介護支援専門員の資格をもつ管理者と職員が、他の職員と共に質の高い介護を行っている。外部、内部研修の機会を計画的に設け、職員のスキルアップをはかっている。開設以来14年経過し利用者の心身状況に変化がみられるが、一人ひとりに適したケアを実施し、家族の希望に沿い、医療連携をとりながら看取り介護を行っている。運営推進会議は定例に開催し、運営状況を報告すると共に、災害、防犯などについて検討している。地域とは町内会行事の参加や近隣小学校との交流、ボランティアの訪問などがあり、地域に根ざした事業所として親しまれ信頼されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を行い、日々気持ちを新たに介護に取り組んでいる。過去に実施した理念の意味を考える研修に参加していない新入社員には、理念に掲げている意味を必ず説明している。	事業所で作成した理念は事業所内に掲示しパンフレットにも記載している。職員は日々理念を唱和し、新人職員には理念の意味を説明している。管理者及び職員は理念を共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	外部施設への夏祭り参加、イベントへのボランティアの参加、家族様から家庭菜園の収穫物をいただく、地域の方の農作物のお届けなどがある。	町内会に入会し、行事に参加している。近くに法人経営のデイサービスがあり、協力関係にある。中学生職場体験の受け入れや、長年にわたり小学校、利用団体との交流(案内板の掲示)がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での発信はある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーの協力で2月に一度の割合で定例化して開催している。	会議は定例に開催され、包括支援センター、町内会役員、民生委員の参加があり、運営内容や利用者状況について詳細に報告している。家族には議事録を送付し、次回開催日を案内して参加を促している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況調査票の提出、各種会議への参加。	行政担当課職員とは入居状況の報告などで連絡するなど、連携関係をとっている。市や区の管理者会議や研修会に出席するなかで行政の意向を聞き、行政と連携を取りながら適切な運営ができるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関センサーでご利用様の思いを知り一緒に出たり、安心される言葉かけなど適切なケアをしている。	身体拘束についてのマニュアルを整備している。介護者の言葉、動作に配慮し身体拘束のないケアを実施している。日中は安全面から玄関は施錠しているが、センサー設置で利用者の様子を把握し、外出の希望のある場合は一緒に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を実施。虐待は起きていない。職員の精神衛生が安定できるよう勤務調整を行い、しっかりと休憩を確保でき、残業のない環境にしている。プライベートの時間も充実できる配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で後見人制度を活用している方がいる。また、必要性が考えられる利用者様家族には、後見人制度についての説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	来所時に面談できるよう時間を持っている。介護保険改定時は連絡を行っており、疑問や不安にはわかりやすく回答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に聞いてはいるが特に意見はない。	家族来所時は親しく話し、希望を聴き、また、手紙や電話で連絡をとっている。年3回「あさひだより」を家族に送付し利用者の日常の表情や行事での様子を写真入りで伝えている。外部への苦情受付機関を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営については面談や会議の場で意見交換ができるよう配慮している。職員からでた意見も、他職員交えて検討し、良いと判断されたものは積極的に反映している。	管理者は面談や会議で職員の意見や要望を聞いている。運営やサービス内容については、職員と意見を交え、良いと思われることについては、採り入れるよう行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を通じて個々の目標を定め、向上心を持ち仕事にのぞめるよう努めている。仕事にやりがいを持てるよう、研修も開催。雇用管理責任者を配置し、労働条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	指導に携わる職員には施設内外の研修への参加を支援している。10月よりメンターコーチ講座も受講させ、メンター制度を導入する。各種研修(施設内外)やスキルアップ研修(初任者・実務者研修・認知症介護実践者研修等)参加を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区管理者連絡会議のスタッフ研修などに参加している。施設外研修等では他施設職員との交流からの学びを研修報告書として提出してもらい、他職員と共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面接で安心できる配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接で様子を聴いて、ケアプランに反映させている。家族の疑問や不安にはわかりやすく回答することを心掛け、安心してサービスが利用できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、何を望んでいるかを面接でしっかり情報共有し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝礼やカンファレンス等で、本人の能力を活用できるケアを職員間で話し合う機会を設けている。家庭的な環境の中で、役割を持ち共同生活を送れるよう配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には本人の様子を伝え、また家族様にも面会時の家族様とご本人との様子を伝えてもらい、情報共有をしている。お便りに職員からの手紙を添えることで、職員全員が家族様と交流できるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前まで円満ではなかった親子関係が、入居をきっかけに円満になった。今後も息子様夫婦との良好な関係が継続できるよう支援する。	家族や知人が来所した時は居室などでゆっくり寛げるように配慮している。家族と共に墓参りへ出かけたり、家族や入居前親しかった方達との絆が良好に続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が心地良い関係性を築けるよう、職員が会話に入ったり、表情や声色をしっかりと観察し、1人1人に対して細かな配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様のご家族から連絡を頂くことがあり、その後の経過や悩みを聞く機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何を望んでいるかを、日常の会話の中で聞き取り、朝礼やカンファレンス等で情報共有しケアに反映させている。思いを表出できない方は、表情や行動等から気持ちを読み取り、ケアに反映している。	日常の会話や表情から一人ひとりの希望や要望を把握している。家族からも情報を得て、職員間で情報を共有し、本人の意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけではなく、家族様や関係者からも情報をもらい、施設での暮らしを押しつせず、その方らしく生活できるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の朝礼や申し送りでの情報を、申し送り・気づきノートを活用し全員に周知している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや朝礼等を活用し、職員と共にアセスメントをし計画を立案している。家族様から意向があれば、その旨職員にも周知し、計画に反映させている。	介護計画は本人家族の意向を聞き、担当者と共に職員全員がカンファレンスで検討し、介護支援専門員が中心となり作成している。3カ月毎モニタリングを行い、状況変化時には随時検討している。家族の同意はサインで確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項には赤線を引いたり赤○をし、他職員が情報を共有しやすい工夫をしている。申し送り・気づきノートも活用し、実践へ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車の運転が出来ず受診が困難な家族様のために、送迎介助をしたり、仕事で付き添いできない家族様に代わり受診介助を行っている。入居時の車での迎え対応も実施した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ADLや認知症状により、町内行事などへの参加は困難であるが、地域の食事処や喫茶店、衣料品店での買い物を通し、地域との関わりを持って生活して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される方には連携している医師の往診を受けて頂いている。これまでのかかりつけ医の受診を希望される方には、受診介助や送迎をするなどの支援をしている。	利用者が希望するかかりつけ医への通院・往診を支援している。提携医の往診は月1回定期的にあり、看護師と共に日常健康管理を行っている。他科受診についても家族と共に支援し、常に適切な医療が受けられるよう行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の心身の変化を観察し気づいたことや異変などがあれば速やかに報告し適切に対応できるよう心掛けている。情報を共有できる申し送り・気づきノートを活用している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様各自の病歴や服用されている薬などの情報をまとめたファイルを用意しており、情報交換が円滑になるよう配慮している。管理者を中心に、主治医だけでなく、入院先の医師看護師とも連携し常に情報共有するよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族との話し合いの中で意向や希望を伺い支援していけるよう努めている。	入居時に本人、家族の意向を聞き、指針に基づき同意書を交わしている。重度化した場合は再度家族の意向を確認し、医療連携を取りながら看取りを実施している。職員は看取りの研修を受けている。看取り時の家族宿泊室は用意している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざというときに冷静な対応ができるよう研修や実習を行っている。マニュアルを用意し、いつでも確認できるよう設置している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行っている。ご利用者様の状況に応じた避難方法などを話し合いシミュレーションする場合もある。年5～6回の実施となっている。	避難訓練は年2回実施している。自主訓練は年5～6回実施し、防火についてはチェック表を作成し毎月確認している。連絡網に町内会役員の名があり、玄関横外壁に非常ベルを設置して近隣に報知するよう行っている。	食料品の備蓄、停電時の寒さ対策、避難場所としてのデイサービスの家の利用など、考慮し準備している。今後も継続して消防署と連携し防災に配慮されるよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性や特性を理解し、尊厳を意識した言葉遣い、言葉かけを心掛けている。	職員は人生の先輩として利用者一人ひとりに尊敬の念をもち、言葉遣いや動作に配慮している。個人情報記載の書類は事務室に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を表出できるような言葉かけをしたり、小さなことでも選択できる状況や環境を作るよう、配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアやレク活動等、価値観を押し付けるのではなく、利用者様の希望に沿って1日を過ごせるよう配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、顔そり、爪切り、耳掃除などは定期的実施。起床後の整容も、声掛けやケアにて身だしなみを整えている。外出の際は化粧や衣服調整の支援をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭で取れたトマト・キュウリ等見て頂き何を作って食べようか話題を持ったり、食事中のメニューの説明をすることで季節感を感じて頂いている。力のある方には、食後の食器片づけをして頂いている。	トマトやキュウリを育て、収穫を楽しみ、食材として利用している。職員は利用者と共に買い物に出かけ、食品の好みを聞いている。利用者は力に応じて手伝い、職員と共に食卓を囲む食事は1日の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェックを主食・汁・蛋白・野菜に細かく分けて行い、残しの多い方には何を好んで食べたのか書き出し、メニューや形態に配慮している。水分チェックや個別に好みの飲み物を把握し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きセットの準備や言葉かけ、重度の方には直接介助で口腔内保清に努めている。同時に口腔内の観察を行い、異常があれば看護師に報告している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前食後の言葉かけで いかないといわれるが、場合によってはトイレというフレーズを使わない等言葉かけを工夫し、"そうだね"と腰を上げて頂ける配慮をしている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、それとなくトイレに誘導して、排泄の自立を支援している。できるだけ布パンツ使用としているが、パットなどは個々に合わせ適切に利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳摂取や、体を動かすことが少ない方には 体操レク時に腹部のマッサージも取り入れ便秘予防に努めている。排泄チェック表を用いて、排便状況を把握している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴支援を行っており、希望に応じてシャワーや入浴、清拭対応している。早く入浴して頂けるような声掛けを工夫し、ご本人の同意で入浴して頂いているが、時には便失禁後の清潔保持のため拒否のある方も入浴して頂くことはある。	希望により毎日入浴することができる。体調によりシャワー浴や清拭も行っている。浴室は毎日清掃し、清潔と衛生管理を徹底している。ゆっくり寛げるよう話しかけ、入浴が楽しい時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や思いに合わせるよう支援、言葉かけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録用紙に薬説明書を綴じ込み、すぐ確認出来るようにしている。変化の起きそうな方については日々の申し送り観察薬の使用量について確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を知るよう努め、持てる力の中で生かせるように努めている。外出・外食行事支援は月一回を目標に勤務調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば洋服購入の外出や月一度は、花見・外食など行っている。墓参り等は家族様支援もあり、希望の方は行くことが出来ている。利用者様にも行きたい場所がないか、希望を聞き、行事企画に反映している。	日常的には庭で花や野菜畑の手入れをしたり、ウッドデッキでお茶を楽しみ日光浴をしている。外出行事として花見や郊外の公園へのピクニック、外食がある。家族と共に外出することもある。利用者の希望に添えるように外出計画を企画・実施し、生活の活性化をはかっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難になり施設側で管理している方が大半。常に自分で財布を所持したいという利用者様には、毎日職員が残金確認をし記録に残している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をつなぐこともしているが、最近では職員による近況報告を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境で落ち着いて過ごせるよう家具の配置や、庭の花を活けたり、季節感も感じられる工夫もしている。利用者様の状況に合わせて、照明を調整したり、テレビやCDの音量を調整している。室温は、働く職員ではなく、常に利用者様にとって良好になるよう調整している。	玄関や廊下には絵画や利用者の作品を飾っている。居間には季節の花を飾り、水槽を置き金魚を飼育している。全館バリアフリーで階段昇降機を設置し安全に配慮している。掃除が行き届き清潔で、採光、温度、湿度、換気も適切で居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲むようにソファを置く等して、利用者様が皆でゆったりとした時間を過ごす空間がある。すぐ近くには食卓テーブル・椅子もあり、1人で過ごすこともできる空間になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた物や、過ごしやすい家具配置を考え居室作りをしている。掴まり歩行をされる方は、家具が手すり代わりになるよう配慮している。鉢植えが趣味の方には、日当たりのよい場所にテーブルを設置し、楽しめる工夫をしている。	居室は広く、収納場所も設置されており、程よく整頓され掃除が行き届き清潔である。馴染みの家具や大切な仏壇を持ち込み、家族写真を飾り、自分の好みに合うように工夫している。家具の配置など動線や安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者様のADLや生活を考え、手すりや家具を設置し、できるだけ自立した生活を送れる環境作りをしている。		